



創立 10 周年を迎えた横浜シュタイナー学園。「10 周年を祝う集い」に在園生徒保護者を始め、ご縁のある方々が集ってくださいました。抜けるような秋晴れの青い空の高みへ、学園の未来とともに想いを馳せる秋です。

～横浜シュタイナー学園「10周年を祝う集い」に寄せて～

「魂をもって行動せよ」

10月17日(土)青葉公会堂にて開催した「横浜シュタイナー学園10周年を祝う会」で祝辞をいただいた建築家・村山雄一さんの言葉に心を捕らえられ、学園の教育実践の記録「野ばら」創刊号の村山さんの文章を読み返しました。

そこには、村山さんが霧が丘校舎(当時はコンクリートがむき出しで天井からは配線がぶら下がったままの状態だったそうです)を設計した当時に頭を悩ませた予算や工期などの問題と、それを乗り越えてきたボランティアの熱意、教員保護者だけでなく、家族や設計事務所の方の友人の力まで加わった働き、そこに生まれた和やかな空気と、それらを見守りアドバイスしてきた村山さんの温かな視線がありました。

祝辞の中で、村山さんご自身の体験として、40年前にドイツのシュタイナー学校で目の当たりにしたボランティア工事のことを語ってくださいました。経済的な事情から教員や保護者によって一枚一枚貼られた床には、神聖さが宿っていたこと。そして、長い歳月を経ても村山さんの中にはその場面が生き続けていること。

学園の校舎にも、村山さんやボランティア工事で関わった多くの方の想いが生きていて、子どもたちがその中で育まれていることを改めて意識しました。私たちもその想いを引き継ぎ、“神聖さが宿る床”を守り続け、また自分たちでもつくり続けよう……。村山さんの言葉から大切なものをいただきました。

会場が神聖な空気に満ちるオイリュトミー



10周年を祝う会は、会場がしんと静まり神聖な空気が満ちたオイリュトミーから始まりました。長井先生の開会のことばの中の「学園の誕生日を祝う会」というお話には低学年の子どもたちにも会の意味が伝わって顔がパッと輝いたように見えました。

5年生の詩の朗読、9年生の歌の発表に続いて6年生から9年生までの子どもたちが歌った学園の歌は、今年の3月に卒業した二期生がつくったもので、子どもたちが学園を想う気持ちが詰まった学園のテーマソングになりつつあります。

「ユニークな活動で学園を支えてくれる」という紹介の言葉そのままに会場を笑いに包んでくれた父親たちによる大喜利、会場にマイクを回して学園を支えてくださっている方々からお祝いの言葉をいただいた挨拶リレー、保護者教員16名もの奏者によるライアーの美しい響き。

そして、創立から関わった長井先生、神田(昌)先生、隅田先生を中心とした教員たちによる創立当時の劇はコミカルに描かれてはいましたが、「シュタイナー学校を横浜に!」という当時のエネルギーや関わった人たちの努力が伝わり、その上で今があることを、その後に入學してきた私たちも感じることができました。劇中から歌われ、途中運営委員も関わった

「SIYAHAMBA」は進みゆく未来への光、祈りが込められた歌です。

……と、書ききれないほどもりだくさんの内容となる10周年を祝う会は、教員による定礎のことば、神田(昌)先生の閉会のことば、最後にみんなで「ハレルヤ」のオイリュトミーをして締めくくられました。創立から関わってきた人も新しく入學してきた人も共に学園が歩んで来た道を振り返り、この先への想いを新たにしたい会になりました。

最後になりましたが、当日お越しくくださったみなさま、会場を華やかに彩るお花をお贈りくださったみなさま、電報やメールで温かなお気持ちを寄せてくださったみなさまに感謝し、この場を借りてお礼申し上げます。

(10周年記念実行委員会 1・4年生保護者 中島美穂)

おやじの会メンバーによる「大喜利」

～10周年を祝う会お礼～

お気持ちを寄せてくださりありがとうございます。(順不同・敬称略)

<ご祝儀> 光田和彦、青戸裕之、千葉千春(グリーンポート)、宮田文子、横須賀シュタイナーこども園、大木尚子(どんぐりのおうち)、中川清、足立久美子

<お花> 京田辺シュタイナー学校、東京賢治シュタイナー学校、よこはまシュタイナー教育の会(土曜クラス)、星の金貨

<祝電> 愛知シュタイナー学園、キンダーガルテンなのはな園

「本当に善きものが続いていきますように」

10月17日、青葉公会堂にて横浜シュタイナー学園の「10周年を祝う集い」が開かれました。懐かしい方々をお招きし学園の成長を祝い、在校生と共に楽しいひと時を過ごすことができました。お祝いの花が美しい口ビーでは、10周年記念Tシャツやタオルも販売注文を受け賑わっていました。10月半ばと言うことで、学園祭を始め、他の行事と重なることも多く、参加できない方も多くおられました。祝福のことばをたくさん頂きました。ここまで支えてくださった皆様、今を支えておられる方々、本当にありがとうございます。

ゴングの響きの静まった会場はオイリュトミーで幕が開きました。八木重吉の詩で始まり、バッハのヴァイオリン、メンデルスゾーンが続きました。学園の外からもオイリュトミストが参加していただきました。古き良き友人である村山さんからの祝福、子どもたちの発表、おやじの会の大喜利、教員による学校設立の頃の劇と運営委員との歌、ライアーの演奏、最後は定礎のことば、ハレルヤで締めくくりました。途中司会からのクイズも入り、2時間ほどで幕を閉じました。

春にはAWTCがあり、当初「10周年まで祝えるだろうか？」と危ぶむ声もありましたが、楽しく祝うことで過去も未来もつながったような気がします。短い期間にこの「集い」取り組み、練習をしてくださった皆様ありがとうございました。

教員による寸劇
「学園ができるまで」
で触れた「ドルナッハ訪問」について少しお話ししたいと思います。シュタイナー学校を作る、という思いをどう実現していくか、どんなふう準備していくか、何もかも初めて

教員による寸劇「学園ができるまで」

でした。資金を集め、校舎を探し、勉強しながらの出発です。生徒の過ごす場に何が必要とされるか、教室はもちろん皆が集まり祝祭を行ったり、教員の集まる空間も必要、近くに公園や自然があること・・・外側を準備しながら教育の中身、カリキュラムという核をどう作っていくかを考え、またこの教育に見合った運営はどう行うのか検討されました。私たちは実質的なこととともに精神的、魂的な助けもとても必要としていました。創る会を立ち上げて2年目に入り、少しずつ計画の実現性が見えてきたとき、BUND(ドイツのシュタイナー学校連盟)とドルナッハの教育部門に私たちの状況を報告し、考えられる助けをお願いしました。

例えばどんなふうで学園の組織を作っていくか考え始めても、出てくるのは今までの会社組織に似たもので、どうしても現場を見て話も聞きたいと思い、ドイツの*エンゲルベルグのシュタイナー学校に見学に行くことにしました。エンゲルベルグはシュトゥットガルトの郊外にある伝統のあるシュタイナー学校です。土曜クラス時代からの友人、森尾朋子さんがオイリュトミストとして働いています。

(* エンゲルベルグ・シュタイナー学園)

(** クリストフ・ヴィーヘルト氏 精神科自由大学(元)教育部門代表)

2004年3月、エンゲルベルグシュタイナー学校を訪ね、どんなふうで学校の組織が動いていて、教師と保護者はどんなふうで働き、どんな問題に直面しているのか等々お聞きしました。エポック授業を見せて頂き、教員会議に参加を許され、カリキュラムを含めたくさんの質問に答えて頂きました。その最中に横浜から電話があり、学校が見つかりそうなこと、ドルナッハからも返事が入っており、本を取りに行くよう連絡がきました。

よくわからないまま、3月の寒い夕方、暗くなりかけた村はずれの丘の道を緊張と寒さに震えながら上り、教育部門の扉を叩きました。もちろんあらかじめ連絡はしていましたし、秘書も**ヴィーヘルトさんも暖かく迎えてくださいました。2年間準備をして、資金も出し合い、今学校の場所も見つかりそうなこと、精神的な支えが必要なこと、そして「シュタイナー教育を深めるために」という本を取りに来たことを伝えました。あとは劇のとおり、私たちの学校の作り方を非常に喜んで、きっと教育部門でも寄付することができるだろうと申し出ていただきました。寄付については帰国して言われた通り会計の詳細を送りましたが、会議で通らなかったようです。世界を見渡せば日本と比べることのできないほど貧しい国も多く、そこでもシュタイナー学校が必要とされるのは当然で納得できました。

ヴィーヘルトさんは2005年学園の開校祝い「春始まり」には祝いの言葉を送ってくださいました。また2007年には約束通り、日本を訪問し横浜シュタイナー学園を訪ね、学園で一日を過ごし、運営委員、教員と話合いを持ち、翌日はあざみ野フォーラムで講演をしてくださいました。運営委員との話の中で参加者の一人が「日本でもシュタイナー学校協会を立ち上げた方が良いのではないかと」できつつある他の学校をどうやって助けられるかと質問しました。その時、彼ははっきりと「協会を作るのはまだ早い。」「歩き始めてまだしっかり歩けない幼児が赤ちゃんを助けることはできない」と言いました。あれから8年がたちました。その間私たちは自分たちの足でしっかり歩み、協会の働きをする組織を作り、お互いに助け合うことができるようになりました。この10年間、目覚ましい成長を横浜だけでなく日本のシュタイナー学校は遂げ、大きく成長しました。ヴィーヘルトさんはそのことを一番喜んでくれている一人です。

先に、楽しく祝うことが未来につながると書きました。10周年を祝うことによって私は100年先が見えてくるとよいと感じています。次の10年では短すぎる、今いる人が皆いなくなっても、本当に善きものが続いていきますように。失敗も多く、未熟ではあっても、それをも肯定し、理想を持ち続け、未来へははっきりと向かい合っていきたいと思えます。

(教員 隅田みどり)

* 5年生、山の学校に行く *

「山の学校」は毎年5年生が愛甲郡愛川町にある神奈川県立愛川ふれあいの村に泊りがけで出かける校外学習です。学習の狙いは登山やハイキングといった自然とのふれあいや神奈川県の上水道インフラや歴史的な産業についての社会科の学びを中心としています。遊びや学びの活動をグループ単位で行い、チームワークの力を養うことももう一つの大きな狙いとなっています。

3年生ではじめて学校の外の畑や田んぼや牧場に出かけ、4年生では横浜市や都築区の社会見学に出かけました。その頃から「ねえねえ、クラスみんなでキャンプに行って、みんなで食事を作ったりできたらいいのにね」といったような声が聞かれ、冒険的な旅に行けたらという期待がクラスの中に生まれていました。そして今年の夏休みが明けた後、担任からクラスの子もたちに山の学校へ行くよという話をしました。3,4年生ごろとはちがって「やったあ！」と喜びを外に表すことはたくさんはなく、外見的には「何をするのかな」といった雰囲気を目を見合わせていました。その後、山の学校の日程や地図や歌を載せたノートづくりが進むにつれて、教室のあちこちで山の学校のノートを楽し気にのぞいたり、「先生、～をするの?」「～には行くの?」と様々な期待に満ちた質問をしたりする姿がありました。その一方、担任は遊覧船や各施設が月曜日は休みということが分かったため急ぎょ日程全体を組み直したり、下見で登った高取山のハードな山道と子どもたちのことを考慮して、山登りではなく別の活動を組み直したりと出発前は大忙しでした。



朝6時半ごろ十日市場駅を出発し、本厚木でバスに乗り替えて約50分で宮ヶ瀬湖に着きました。明るい陽射しが美しい緑の中に差し込んでいる朝から始まりました。きよるきよるしながら遊覧船に乗り、巨大ダムを

見学して、公園で汗をいっぱいかいて走り回り、てくてく歩いて愛川ふれあいの村に行きました。午後は野外炊事場でカレーを作ります。クラスの子もたちにとっても良い面が現れているなと感じたのは、チーム内での仕事の分担と手際の良さ、活動にとっても機嫌よく取り組んでいて、その快活で明るい雰囲気が全体に満ちていることです。たき火と鍋だけでご飯とカレーをあっという間に作り終えました。そして、そのどれもがおいしかったのです。二日目の夜はメインイベントのキャンプファイヤーでした。歌や踊りも楽しかったのですが、女の子から「先生、お相撲がしたい!」という声が拳がり、他の女の子たちも「やろう、やろう」と応じます。ファイヤーの火が照らすなか予定になかった相撲大会が始まりました。キャンプの歌と踊りは一週間前からしっかり取り組んでいたのですが、いわゆる普通の歌と踊りよりも、お相撲の方が熱狂的に盛り上がるということになりました。男の子たちもリクエストに応じてお相撲を楽しみました。

(5年生担任 森田 修)

* 3年生 家づくり *

～はじまりは里山から～

シュタイナー学校へわが子を通わせたいと思った大きなきっかけとして、“3年生の学び”がありました。“3年生”を学園のパンフレットから引用してみると、『世界との出会い／自我が芽生え、「自分」と「他者」を分離してものとして意識し始めるため、世界から切り離された孤独と不安を感じる。人間が世界とつながる営みとしての原初的な仕事を実際に体験することを通して、地に足をつけて生きていくことの喜びを学ぶ。』とあります。この教育の奥深さへグッと入っていきような時期が、私にとっての3年生であり、その中でも最大のエポックが“家づくり”だと思います。

さて、今年の3年生の家づくりは徒歩15分の里山(新治市民の森)にある竹林から、家の骨組みとして使う竹を切り出すことから始まりま



した。この竹林、ちょっと中に入ると竹取物語を人が書きたくなったのがわかる～と思うような美しい空間です。思わず上を向いては、竹枝と竹枝の重なりに見とれます。この日は愛護会の全面協力によって、のこぎりを手に30本以上の竹を切り出しました。竹が裂けてしまわぬように、切り込みを入れた反対側から切っていくことや、竹の節の数は生まれながらにして決まっている、というような話を聞きながら作業開始。今年の3年生の特徴としては、とにかく実作業が大好き!仕事の飲み込みは早く、枝払いもさっさとコツをつかんで、どんどんこなしました。“仕事”をする姿勢は、3年生という成長そのもの。やるべきことを淡々とこなし、でもそこに生き生きとした熱があります。このクラス、なかなかやんちゃなクラスとして名高いのですが、それでもこのお日様の下、働く姿は輝きに溢れていました。竹を切り倒した時の、バサバサバサバ・ドーンという音と振動に、子どもたちはなんとも言えない自然の力強さを感じていたようです。

午後は家に葺く葺を100束程束ねる作業です。愛護会の方の中に、いぼ結びという職人さんならではの結び方をするおじさんがいました。子どもたちにそこまでは要求していないのですが、俄然張り切ります!おじさんの横に何人もが陣取り、手元を見ては真似しての繰り返し…「もう1回やってください」と何度もおじさんにいぼ結びを習います。でもこれ、職人の検定課題にもでるくらい難しいものなので、そんなにすぐにはできません。しかしながら大事なことは、できることではなく、やってみようとする行動だよねえーと感心する私でした。学園に関わる大人だけではなく、こうした地域の人たちとも触れることができ、見守っていただける環境にいる子どもたち。里山の自然と温かい人々に囲まれて、深く感謝を思う1日でもありました。この学びを経て育っていくこのクラスがますます楽しみです。

(3年生保護者 藤好千晶)

インフォメーション

連続講座

「シュタイナーの人間観・宇宙観」

日時：第1回～5回は終了しました。

第6回（最終回） 12月13日（日）

14:00～16:00

講師：不二陽子先生（シュタイナー学園教員）

場所：十日市場校舎

参加費：2,500円（NPO会員2,000円）

入学説明会（二次）

参加費無料。

A、B両方にご参加の方に

入学願書（1,000円）を配布いたします。

A) 12/5（土）教育内容について

B) 12/12（土）保護者の関わりについて

※要申込。詳細はHPをご確認ください。

二期月例祭

子どもたちの学びの成果をご覧ください。

12月19日（土） 場所：旧若葉台西中学校

※要申込。詳細はHPをご確認ください。

茶話会／校内見学会

学園の雰囲気を感じていただける

この機会にどうぞお訪ねください。

<茶話会>

教員を交えてざっくばらんに話ししましょう。

11月20日（金）10:00～12:00

<校内見学会>

教室など校舎内を教員・事務員がご案内

日時：11月20日（金）15:30～16:30

参加費：無料 お子様連れも可です。

場所：霧が丘校舎

※お様の上履きをご持参ください。

連続講座

「建築の歴史」

日時 11月5日（木）

2016年2月3日（水）

10:00～12:00

講師：岩橋亜希菜氏（シュタイナー建築家）

場所：霧が丘校舎

参加費：2,000円（NPO会員1,500円）

※終了後、ランチ会もあります。

ジョン・ビリングライアーコンサート

日時：11月15日（日）

15:30開場 16:00開演～17:30

場所：十日市場校舎

料金：前売2,500円（会員2,000円）

当日3,000円（会員2,500円）

定員：70名

★小学生以下のお子さまの入場は

ご遠慮ください。

ご寄付ありがとうございます。（9/26～10/21）

（順不同・敬称略）

竹内真弓、星の金貨

～皆様からのご寄付は大切にさせていただきます～

☆星の金貨より☆

「くるみのアドヴェントカレンダー」はおかげ様で完売いたしました。ありがとうございました。申し込まれた方には、11/5頃に発送いたします。

これからの季節、アドヴェントに関する品物が入荷してまいります。どうぞお立ち寄りください。

お問い合わせ

e-mail:hoshi-kinka@freeml.com

ブログ

http://hosinokinka.blog100.fc2.com/



親子でむかえる「アドヴェントのつどい」

☆クリスマスを待つ聖なる時期 美しく飾られた学園をお楽しみください☆

日時：2015年11月29日（日）10:00～14:30

会場：横浜シュタイナー学園 霧が丘校舎

クリスマスのお話・ライアー演奏・ワークショップ・バザー・喫茶など

【同時開催】学園紹介 in 十日市場校舎 12:00～15:00

～6～9年生の学び舎である十日市場校舎を公開します～

NPO会員・NLメンバー案内

正会員・賛助会員：12,000円

ニューズレターメンバー：2,000円

継続登録、2015年度新規登録、絶賛募集中です。

詳細は事務局へお問い合わせください

横浜シュタイナー学園

Newsletter 第85号

2015年10月27日発行

編集：広報の会

発行：NPO法人 横浜シュタイナー学園

https://yokohama-steiner.jp

〒226-0016 横浜市緑区霧が丘3丁目1-20

TEL/FAX 045-922-3107

※掲載内容の無断転載をお断りします

学園のホームページ URL・メールアドレスが新しくなりました

お問合せ、お申込み先

横浜シュタイナー学園事務局

Tel&Fax: 045-922-3107 e-mail: gakuen-info@yokohama-steiner.jp

【会費・ご寄付等お振込先】

郵便振替： 00260-0-130702

加入者名：特定非営利活動法人横浜シュタイナー学園

ゆうちょ銀行：店番 029 支店名 029店 (せのこわり店) 当座 013702

NEW!!

NEW!!